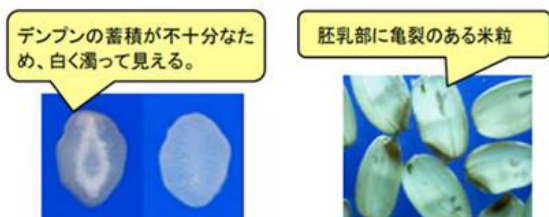


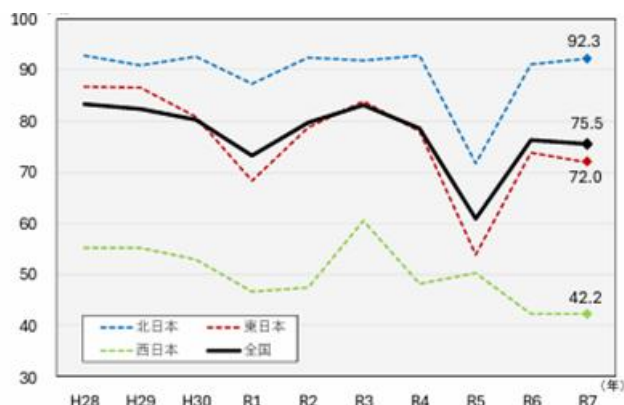
○ 気候変動により米の品質が低下

近年の気候変動に伴う猛暑は、全国の米づくりに大きな影響を与えています。お米が実る時期に高温になると、でんぷんが不足し白く濁った「白未熟粒」や、胚乳の部分に亀裂が入った「胴割粒」が発生することが明らかになっており、品質低下を招く深刻な課題となっています。令和7年産米では、夏の平均気温が平年を大きく上回ったことから、全国的に白未熟粒の発生が多く見られました。発生割合は作付面積ベースで3~4割に達し、特に西日本では5~6割の地域で確認されるなど、高温による影響の大きさが改めて示されました。

白未熟粒、胴割粒の様子



水稻うるち玄米の一等米比率の推移



出典：令和7年地球温暖化影響調査レポート（農林水産省）

○ 暑さに強い新品種「あいちのこころ」

愛知県でも気候変動に対応した米づくりへの取組が進んでいます。愛知県農業総合試験場とJAあいち経済連は共同で「あいちのこころ」を開発しました。この品種は、県内で最も多く栽培されている「あいちのかおり」をベースに、暑さや害虫に強い遺伝子を持つ品種と交配を重ね、2025年5月に品種登録されました。高温条件下でも白未熟粒の発生が少なく、品質の高い米を安定して生産できることが大きな特長です。

写真「あいちのこころ」の草姿



出典：水稻早生品種「あいちのこころ」の導入事例について（愛知県）

○ 本県の高温暖性品種の作付状況

農林水産省の「地球温暖化影響調査レポート」によると、本県の令和7年産の主食用米作付面積に占める水稻高温暖性品種の割合は7.2%と前年(2.4%)の3倍に増加しており、気候変動に適応した高温暖性米の栽培が広がっています。

愛知県気候変動適応センター
環境調査センター 企画情報部
電話 052-910-5489（ダイヤルイン）

愛知県気候変動適応センターだよりのバックナンバーはこちら

<https://www.pref.aichi.jp/site/ailccac/tekiou-dayori.html>